

昭和42年

# 水戸市消費者物価指数の概況

茨城県統計課

## 1. 概況

昭昭和42年平均の水戸市消費者物価指数（昭和40年=100）は、総合指数で107.9となり、41年平均に比べ3.4%の上昇を示した。この上昇率は40年の9.3%、41年の4.4%を下回り、39年の3.2%に次ぐものである。

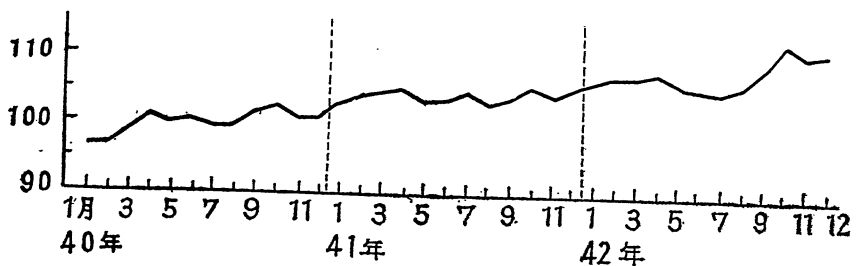
42年の消費者物価の上昇は、野菜、生鮮魚介などの生鮮食料品と乾物がかなりの上昇を示したことと、主食、サービス料金などの値上がり加わったためである。反面、41年に大巾な値上りを示した果物は、年間を通して低水準で推移した。

0.5%の上昇となった。

5月に入ると、野菜、果物など生鮮食料品の豊富な出回りによつて、総合指数は-1.3%となりの反落となつた。6月にも野菜が値下がりし、生鮮魚介も下がつたので-0.6%と前月に続いて下落し、7月に入つても野菜の値下がりが続き、果物、塩干魚介なども下がつたので、更に-0.4%の下落となつた。3ヵ月続いて値下がり続けた野菜も、8月に入ると上昇に転じ、生鮮魚介、肉類、乳卵果物などの上昇も加わつて0.6%と反騰した。

9月になると野菜が急騰し、生鮮魚介、果物、乳卵などの食料品のほか衣料の値上がりも加わつ

図1 消費者物価指数の推移



## 2. 年間の推移

42年の消費者物価の動きを概観すると、1~4月は上昇、5~8月は反落低迷、9~12月に急上昇から水準回復という傾向を示している。すなわち、年初には野菜、生鮮魚介などの値上がりによつて、総合指数は0.8%上昇し、2月は果物がかなり上昇し、野菜も引続いて上がったので0.7%の上昇となつた。3月に入ると乾物、生鮮魚介、酒類などが値上がりしたが、野菜、衣料などが下がつたため、総合指数は保合いとなつた。4月は新学期を迎えて教育が大幅に上昇し、野菜、設備修善、外食、酒類、生鮮魚介なども上がったので

たので、2.6%とかなりの上昇を示した。10月は野菜、果物、乳卵などの大幅な上昇のほかに、消費者米価の改訂が行なわれたため、3.3%と今年最高の上昇を示した。11月に入ると野菜、果物、生鮮魚介など生鮮食料品に値下がりがみられたため、一方で私鉄運賃、理髪料などが上がったが-1.6%と反落した。12月は前月値下がりした野菜のほか塩干魚介、乳卵、大工手間代などの値上がりによつて0.4%の上昇となつた。

## 3. 費目別指数の動き

費目別に前年平均と比較してみると、総合を上回る上昇を示したものは食料の3.9%、雑費3.8

%、住居3.7%などで、被服は1.4%、光熱は0.8%の上昇にとどまった。

食料の上昇は、野菜、生鮮魚介、乾物などが1.7%、12.5%、10.1%とそれぞれ10%以上も値上がりしたほか、外食の6.1%、肉類5.5%、塩干魚介4.1%の上昇なども加わったためである。

雑費指数は、私立学校授業料などの教育が0.6%、私鉄運賃などの交通通信が5.1%、洋裁学校月謝などの教養娯楽が5.0%も上昇したためである。

住居指数は、住宅修繕材料や大工手間代などの設備修繕が8.9%とかなり上昇したほか、家賃が4.8%も上昇したためである。

被服指数は、洋服仕立代などの値上がりで身の回り品が3.6%上昇したためである。なお、衣料は0.6%とわずかな上昇にとどまっている。

光熱指数は、まき、木炭などの燃料（その他光熱）が1.6%上昇したためである。

#### 4. 総合指数の上昇に寄与した割合（寄与率）をみると

総合指数の上昇率3.4%を100とすると、食料は51.3%、雑費30.8%住居11.6%、被服5.2%、光熱1.1%となっており、食料と雑費の上昇がかなり大きく影響していることがわかる。

食料は上昇率の高い野菜、生鮮魚介が寄与率でも13.7%、9.5%と高く、主食の7.6%がこれに次

いで高い。また、外食の5.3%、肉類4.7%など高いが、上昇率で第3位の乾物は1.9%と比較的低い。雑費では教養娯楽が13.8%と最も高く、教育の10.0%、交通通信の5.0%の順となっている。

住居で高いのは設備修繕の7.8%、被服では身の回り品の3.7%などである。

#### 5. 中分類指数の年間の動き

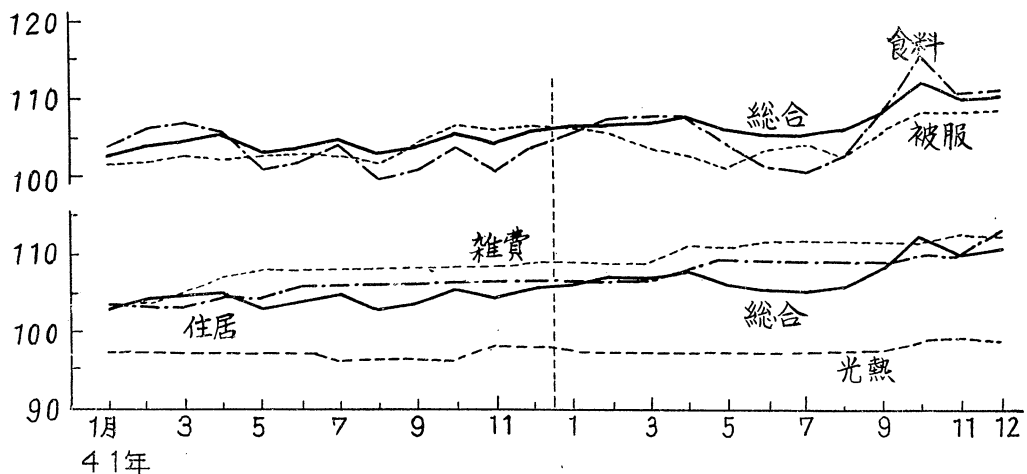
上昇率の高い主な中分類費目について、年間の動きをみると次のとおりである。

##### (1) 野菜指数

1月の野菜、キャベツ、ほうれん草、白菜、ねぎなど13品目が値上がりしたため、前月に比べて41.5%と大幅に上昇した。これらの品目は2月に入っても値上がりしたため10.7%の上昇となったが、3月には、ほうれん草、ねぎ、かんしょ、ごぼう、トマトなどの値下がりのため-2.4%と下落した。4月に入っても、ほうれん草、ねぎなどのほか、きゅうり、ピーマンなども値下がりしたが、キャベツ、大根などがかなり大幅に値上がりしたため7.1%の上昇を示した。

しかし、5月に入ると、キャベツが1kg当り97円から31円と大幅に値下がりし、大根、玉ねぎなど11品目も下がつので、野菜指数は-25.6%と大きく下落した。その後も夏野菜の豊富な出回りによつて6月は-28.4%、7月は-27.3

図 2 5 大費目別指数の推移  
(水戸市 昭和40年=100)



%と相ついで大きく低落した。8月にはねぎ、かんしよ、ばれいしよ、なすなどが下落したが、キャベツ、大根、きゆうり、トマトなどが値上がりしたので26.0%と上昇に転じた。

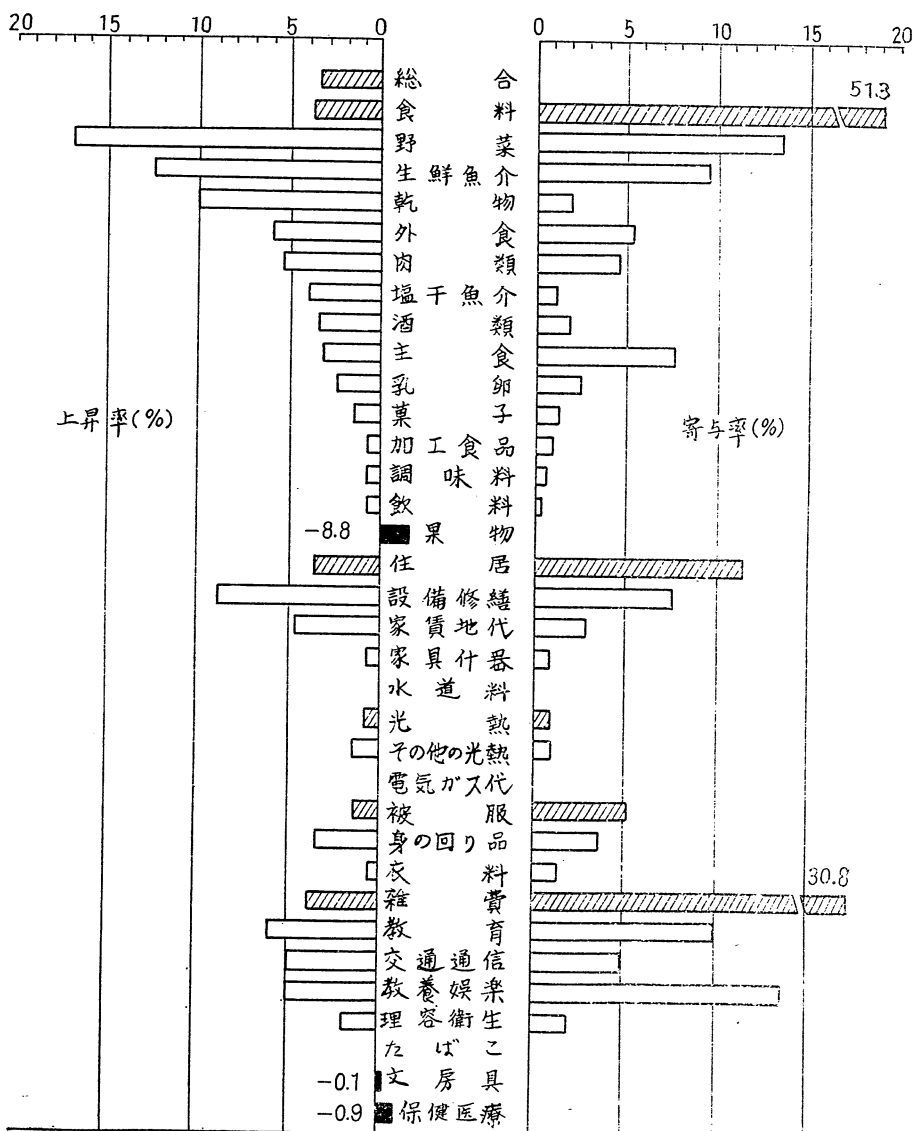
9月に入ると、キャベツなど15品目が値上がりしたため65.3%と大幅な上昇を示し、10月にも大根など8品目の値上がりによつて41.8%と相ついで上昇した。しかし、11月はきゆうりなど4品目が上がったが、ほうれん草、白菜、レタス、カリフラワー、大根など15品目が大きく値下がりしたため-37.9%と大きく下落し

た。12月はレタス、カリフラワー、大根などが引きつづいて値下がりしたが、かんしよ、ばれいしよ、里芋、きゆうり、ピーマンなどの値上がりによつて4.6%の上昇を示した。

(2) 生鮮魚介指数

1月の生鮮魚介は、まぐろ、さけ、さば、かきなどの値上がりによつて11.4%上昇したが、2月に入ると、あじなど6品目の値下がりであり-3.1%と下落した。しかし、3月はいわしなどの値上がりで3.7%の水準を回復し、4月にはひらめなどが上がったため、2.0%と更に上昇

図3 消費者物価指数の中分類別上昇率と寄与率



した。しかし、5月はいわし、かれい、ぶりなどの値下がりで-0.7%と下落し、6月もかつお、さけ、ひらめなどがかなり値下がりしたので-11.3%と大きく低落した。7月に入ると、あじ、かつおなどが上がったので、11.1%とまた水準を回復し、8月もかつお、かれい、いかなどの値上がりで5.6%、9月はさんまなどの大幅値上がりなどによつて16.3%と相ついで上昇した。10月に入ると、前月急騰したさんまが大きく下がり、かつおなど7品目の下落も加わつて-15.1%と反落し、11月はあじ、12月はひらめなどの値下がりで-2.3%、-4.0%と相いついで低落した。

### (3) 肉類と乳卵

肉類指数と乳卵指数は、前半横ばい後半上昇という傾向を示した。肉類は、6月までわずかな上昇をつづけたが、7月に入つてかなりの上昇を示し、8月は4.6%と目立つて上昇した。これは豚肉の値上がりによるものであるが、9月は豚肉のほか牛肉も上昇し、10月は更に牛肉が上がつたので、9月2.1%10月5.2%と相ついで上昇した。11月に入るとツーセーズが上がり、12月はまた牛肉の値上がりなどから0.3%、0.8%とわずかではあるが上昇を続けた。

乳卵は、2月に2.0%と上昇したが、その後6月まで下降を続けた。しかし、7月に入つて牛乳が18円から20円と値上がりし、更に鶏卵も上がったので、8.4%も上昇した。その後8月3.5%、9月4.3%と更に上昇が続いた。

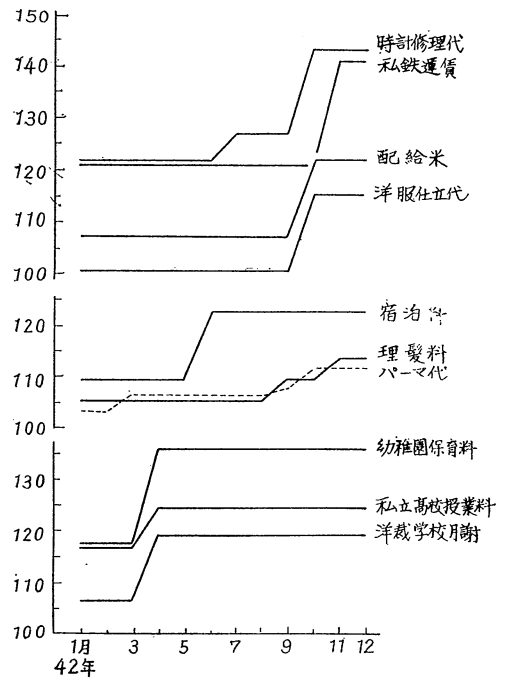
10月に入つて、牛乳は20円から25円に値上が

#### 総合指数の都市別上昇率比較

(昭和40年=100)

都 市 別	42年平均指数	対前年上昇率
全 国 平 均	109.3	4.0
水 戸 市	107.9	3.4
宇 都 宮 市	108.9	3.8
前 橋 市	107.8	3.4
浦 和 市	108.8	3.9
千 葉 市	108.6	4.0
東 京 都 区 部	109.1	4.1
横 浜 市	109.1	4.2
甲 府 市	108.4	3.6
長 野 市	108.9	3.8

図 4 主食と主なサービス料金の月別推移



りし、鶏卵も上がったので14.0%と大幅な上昇を示した。その後鶏卵の騰落によつて、11月は-0.2%と下落、12月は3.6%と上昇し、高水準のまま越年した。

### (4) 米価とキービス料金、外食など

消費者米価改訂の結果、10月の主食指数に比べて10.5%も上昇した。品目でみると、配給米ではうるち米が13.9%、もち米8.6%、自由米ではうるち米が8.5%、もち米5.1%の値上げとなつた。

米価値上げと時期を同じくしてサービス料金のうち洋服仕立代と時計修理代が15.3%、13.0%と大きく上昇している、また、理髪代は9月に3.7%11月3.6%、パーマ代も9月に1.6%、10月に3.1%と上がった。

なお、外食関係ではカレーライスが5月に値上げされて、かけうどん、コーヒーなどは4月、酒類のうち2級酒も4月に値上げされている。

### 6. 都市別の比較

関東甲信地方の各県庁所在都市と比べてみると、総合指数の対前年上昇率で最も高いのは横浜市で4.2%の上昇となつており、東京都区部の4.1%、千葉市の4.0%などがこれに次いで高く、水戸市は前橋市とともに最も低い上昇率である。また、指数そのものでも前橋市の次に低く、40年から42年までの2か年間の上昇率でも低い。